



たいよう

第2号 令和7年4月30日(水)

- 【た】 たくましい子
- 【い】 生き生きと活動する子
- 【よ】 よく考える子
- 【う】 美しい心の子

「私は今日、林檎の種を蒔く」の気持ちで

校長 関根 努

今年度が始まり、約一か月が経とうとしています。校庭には、薄紅色や白の花水木（ハナミズキ）が咲き、新緑が日増しに鮮やかになってきました。ハナミズキの名称は、春に枝を切ると樹液が水のように滴ることから「水木」と名付けられたとされています。また、ミズキ科の植物の中でも特に美しい花を咲かせることから「花」が付けられたと言われています。

さて、昨年から「夢をもとう」「目標をもとう」ということを話してきました。今年も繰り返し話をしていこうと思います。大人が考える「夢」「目標」「希望」をもたせるのではなく、自分の心から湧き出る、自分なりの「夢」「目標」「希望」に気付かせていきたいと考えています。私たち大人は、子供たちの無限の可能性を、心から信じるとともに、大切に育てていかなければなりません。

今年もメジャーリーグで活躍している大谷翔平選手は、小学三年生の時から「プロ野球選手になりたい」と夢をもち、具体的な目標を決めて練習してきたことで夢をかなえています。彼は、多くの人から尊敬されていますが、メジャーリーガーになったからすごいのではなく、夢をもち、その目標に向かって努力し続けたことがすばらしいのです。

子供たちの目指すゴールは一つでも、進み方は一人一人違ってよいのです。自分の目標に向かって、少しずつ歩み続けることが大事なのです。

「もし、世界の終わりが明日だとしても、私は今日、林檎の種を蒔くだろう」

Even if I knew that tomorrow the world would go to pieces, I would still plant my apple tree.

これは、マルティン・ルターやコンスタンチン・ゲオルギーが残した名言です。

子供を育てるということは、終わりがあるものではありません。常に、一人一人を高みまで導き続けなくてはなりません。それも、はじめから予定通りに完成するというものでもありません。一つの種を蒔くという地道な作業を子供の成長のきっかけづくりと重ね合わせながら、根気よく続けていくことが、子供を育てることの本質になると思います。「今日、林檎の種を蒔く」の言葉の意味をかみしめながら、子供たちの学校づくりに励んでまいりたいと思います。皆さまのご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

